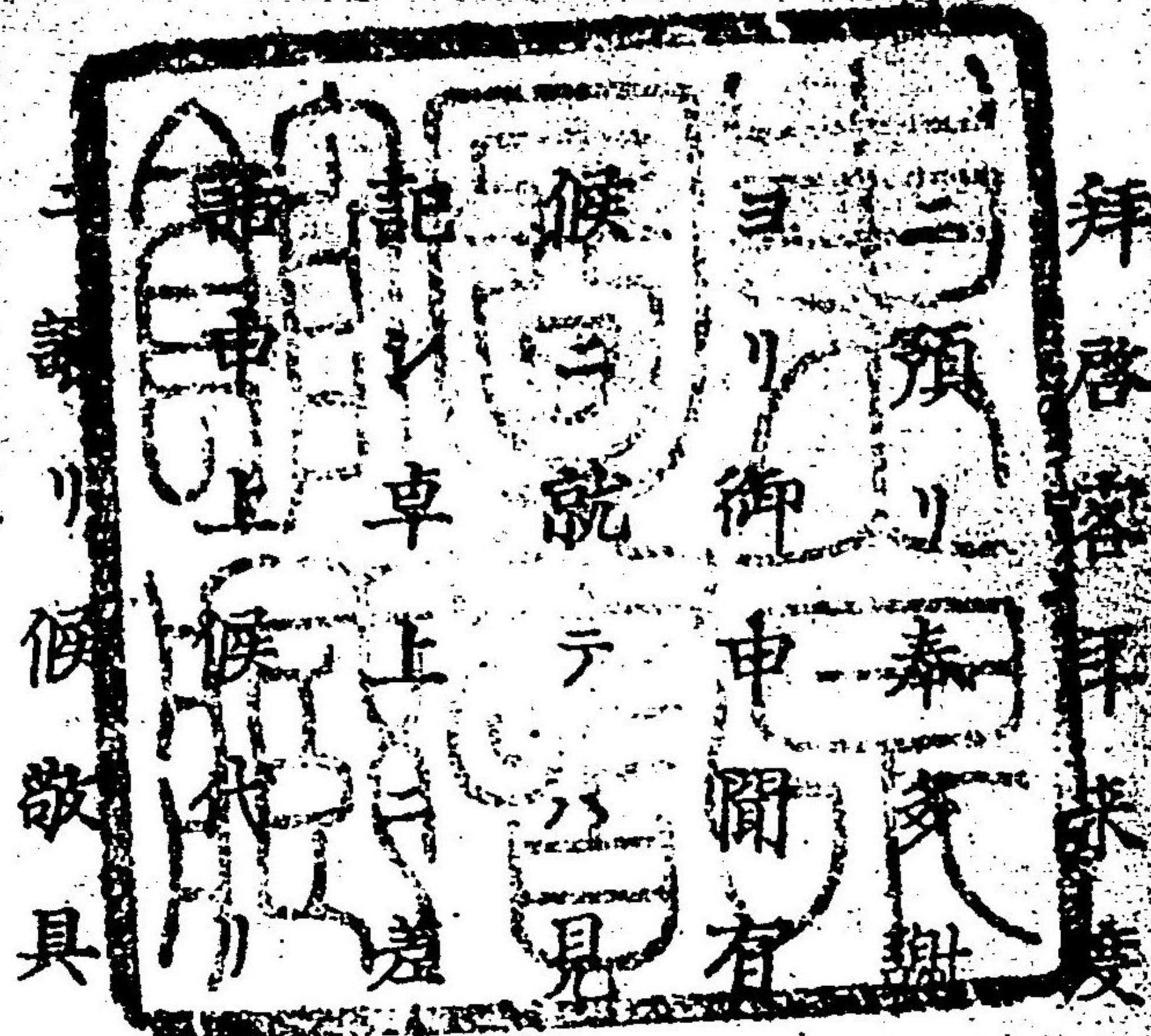


97  
6  
488

は  
あ  
い  
せ  
代  
理

W/16247



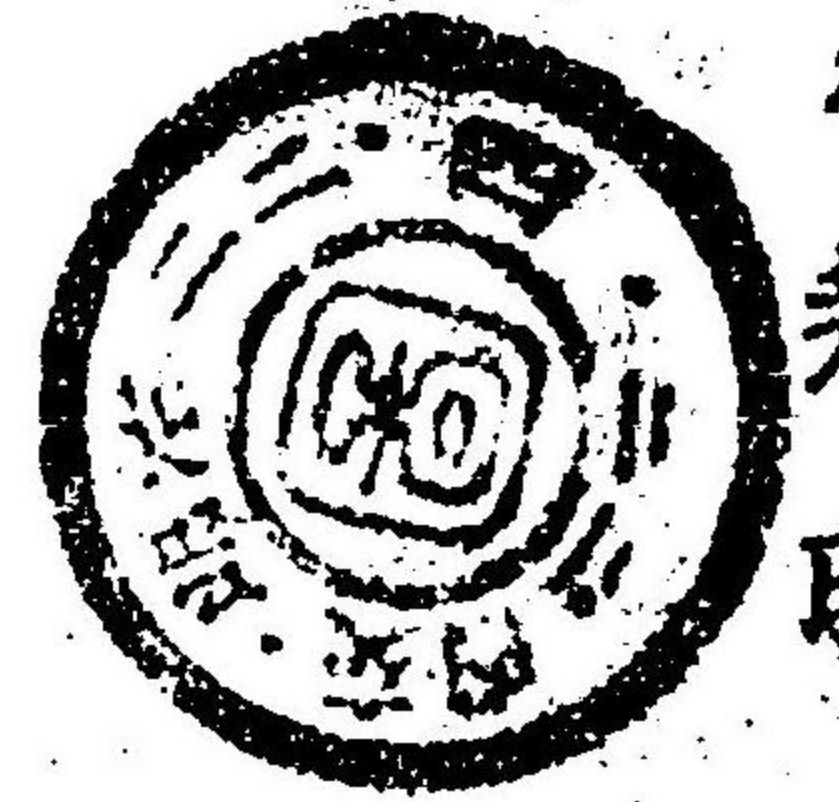
拜啓 預リ 奉 謝  
ヨリ 御 申 聞 有  
候 三 就 テ 見  
記 車 上 二 差  
御 申 上 候 代 行

米ノ處無異幕朝仕候毎々御訪問  
候右旅中ノ事共御話可致旨諸君  
之候得共多忙不在勝ニテ行届兼  
聞中感情ヲ起セシ事柄ノ一二ヲ  
置候間留守中御来訪ノ諸君ハ御  
二別冊御一覽被下度委細ハ拜晤

明治廿二年三月

御来訪各位

高木文平



はなしの代理

此度の米國行は僅少の日月間より二万英里餘を馳せ回り殊に琵琶湖疏水も適用も可き事物は取調を主眼と志たれば餘事を穿鑿するの暇なく土産話とあるべき種を拾ひ得たりし去りなむら見聞の間より於て感情を惹起せし者あきよ非だ其最も感し深かり志とのを摘て御話致しべし

其感情の深淺より就て一言あさざるを得ざる要あり之を述んより凡事物を視察せんとして海外より赴く者は内國百般の事情も通曉したる老練者より非されば効驗を見る鮮あるべし一例を

舉んより其視察をへき國の事物は五汁七菜の珍膳の如し視察者は之を喰ふ客乃如し菜肉固有の香氣風味を知らされは調理塩梅の工拙を察知し難し尚且珍膳より向ひたることかく箸の取り方食禮の何たるをも知らぬ飯と味噌汁の外は名稱たれも知らざる丁稚として珍膳調理の工拙を察するを得んや余こそ丁稚本膳を免れざる者かれば料理の極意は知るより由なし膳部中より就き無暗より其の最も甘味あまし物と最も辛味あまし物との一二を舉て土産話とあるは請ふ之を諒察あれ

目次

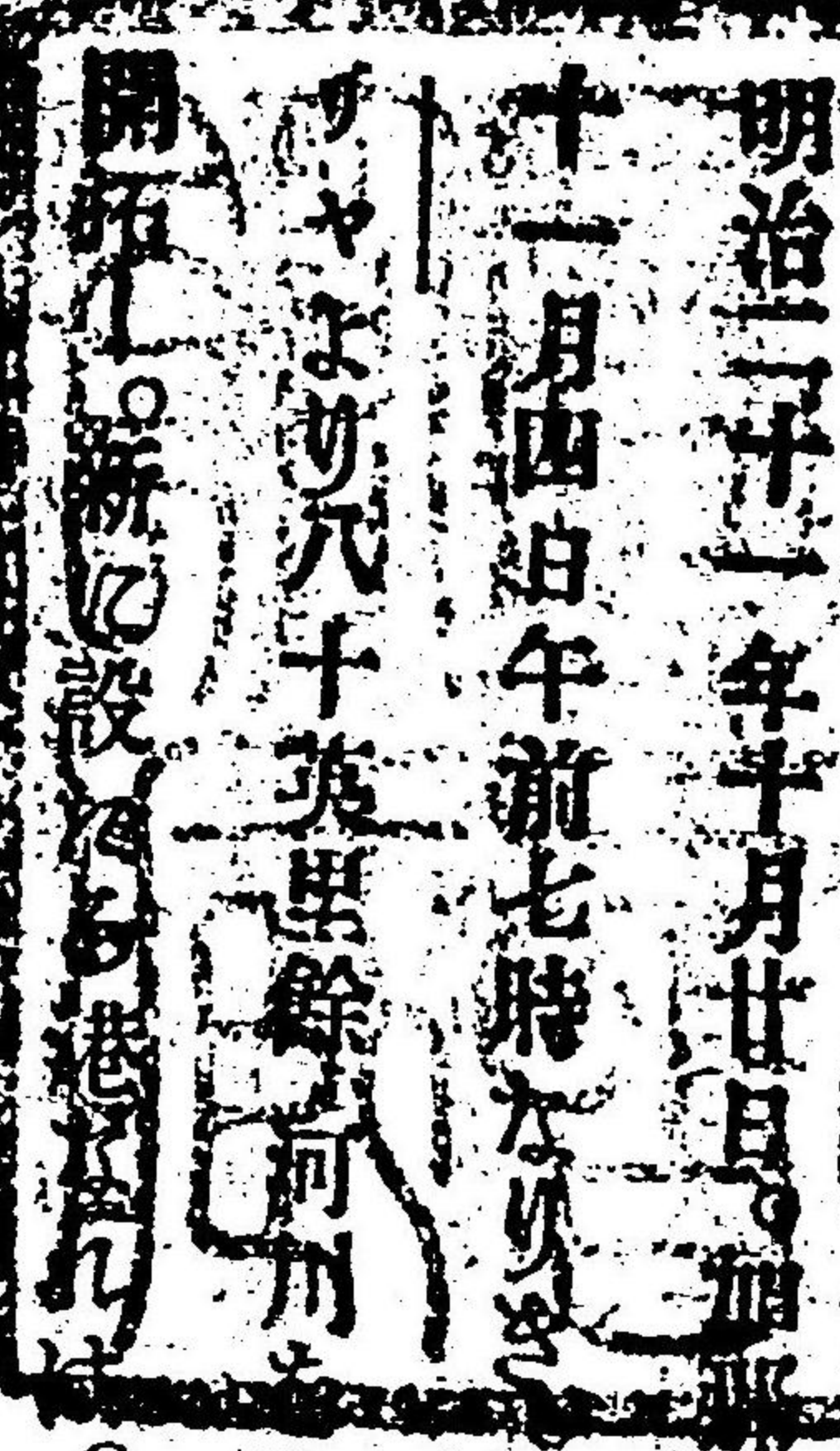
- 一 英領加那陀の曠原及森林
- 一 米國よ支那人多く日本人少し
- 一 合衆國の政黨及大統領の撰舉
- 一 米人時を惜むの實況
- 一 米人の氣風
- 一 合衆國の保護稅
- 一 合衆國の銅石像
- 一 米國の自由不自由

はなしの代理



英領加那陀の曠原及森林

高木文平著



明治二十一年十月廿日。加那陀飛脚船にて横濱を抜錨し。パンクウバ港に着せしは。同  
 十一月由午前七時なり。拂曉始めて米國の土を踏みたれども。パンクウバはリクト  
 リヤより八十英里餘。河川を遡りたる山間にて。今も距る三年以前より。始めて森林を  
 開拓し。新の設けられたる。人家も少なく。建築も木造の二三階勝にて。感心する程の  
 者とはなかりし。同日午後十二時四十分。汽車にて東行を始し。往けともくく

森林のみにて。(木種は樅楡明檜松の類にて。良材最も多く。雜木は凡そ十中の一二に過  
 ぎず。古來鐵刃を加へたる跡なく)。同六日まで二晝夜程は。大約同一の森林のみ。夫よ  
 り四晝夜間にして。モントリヨールに達するまでは。また一様の原野のみ。此三千英里  
 中。鐵道線路に沿ひたる地所二千五百萬エーカー(凡そ我か一千萬町歩)は。英國政府よ

リ加那陀鐵道會社へ。二千五百萬弗の金と共に保護として下附せられたるものなれば。即ち該鐵道會社の私有地なり豫て我國は小なり米國は大なりとは。地圖に因て知り得たるも。眼前斯く未開墾地の廣大なるを見ては。實に意欲の外に出て仰天閉口千萬なり。現時加那陀の人口は五百万人に満たす。此上幾千万人を増加するも。地面に於て不足なく。我邦人の出稼移住等をなすに。一處の適當地なるべく。一日モントリヨール府に於て。名ある紳士ゼービーカンチン氏の紹介にて。同鐵道會社長バンホン氏に面會の際。同氏が所轄の鐵道線路三千英里。修繕の常工夫は。何れの國人を使用するや。且二千五百万エーッルの地所は。何國の人民を移住せしめて。開墾するかとの豫考を問ひたるに。同氏常工夫は何國人を問はず。何人にてても使用するべく。又二千五百万エーッルの地所も。何國人となく望に任せて開墾せしむべく。何分當國は人口不足。目前の事業すら人の不足なるが故に。行渡らざる程なれば。折角の土地も開墾に到らざるあり。若し貴國人にして移住し來れるものあらば。相方の幸なるべし。且サンマリア地方に限り。

「戸に付百五拾エーッル」(我三十六町余)へ。英政府より無代價にて分ち與へ所有せしむべしと答へられたり。但し予等か瀟車旅は日夜兼行なりしを以て。夜中に通過せし場所は。地味の如何を認むる能はざりしも。日中通過せし場所は。終日地質の如何に目を附け意を注ぎたるに。膏腹にして農作に適すべく。又牧場に適すべし。去りながら僅に鐵道線路の左右。肉眼の及ぶ限すを見認むるのみにて。望遠鏡すら及ばざる曠原なれば。素より全體を窺ふ能はざりしは残念なりき。該地方に向つては。我が同胞の爲め彼の國の爲め。大に謀る所の考ありと雖も。畧して後日の談に譲らん

米國に支那人多く日本人少し

米國中に支那人雜居の多きは。世上の一大問題にして。既に世人の知る所なれば贅せざるも。ニューヨークのダウンタウン街と。サンフランシスコのチャイナ街とに。支那商店の多き人口の夥しきは。(但カリホルニヤ州中にある支那人のみにて。拾萬人を超ると云ふ。)實に驚くに堪たるなり。凡て支那人は劣等の業を取り。劣等の生活を爲す者

なりと。蔑視する者多しと雖も。該生活の度は知らざるも。米國に在りて商店を張る支那人の如きは。敢て蔑視す可き者にあらず。數町の間。軒を連ねて店舗を張り。店に置く品物は。支那自國の物に限らず。又支那人を目當として張れる店舗にあらず。我日本製の諸品あり。英佛製の諸品あり。該資本の太き者は。中等の米國商人と肩を並べて。劣らざる者間々ありと。且今尙資本大ならず。僅少の品物を賣買し。些少の賃金を得て。生計を營む者と雖も。聚めて散せざるを秘訣とする者なれば。歲月を積むに従ひ。一廉一たる資産者となるへきは疑を容れざるなり。眞に白哲人種も猶及はず。否。終に白哲人種の眼肉を喰ふものは支那人ならん。其銳きことを畏るべきなり。之に引替へ我日本人の米國に雜居して業を營む者の少なきは。實に驚歎に堪へざるなり。夫れ我國は米國に憐り。通常十五日間。遅きも廿日間にして。彼の地に達するを得べく。往時。京都人が奥羽。及北國人が江戸に出ると。西國九州邊より京阪に来ると。同日數にて達すべく。旅中險山の困苦なく。和船の困難なく。容易の海路なるに拘らず。今に渡米者の少なきは。遺憾

に堪へざるなり。残念ながら我日本國は土地狭く。其上氣候の佳なるを以て人口の蕃殖多く。毎年四五十万の人員を増し。彼の口癖の三千五百万人は。何時の間にかや六百万七百万となり。今日にては殆んど四千万に達せんとい。其上衛生の術日に開けて。死すべき者も生に回り。汽船や汽車の便日に増し。險道峻坂の開鑿月に進み。諸種の。製造は機械に移り。上等社流の衣服は英佛の毛織となり。中等以下は番頭丁稚三助阿三に至るまで。大方西洋系の織物を着。夜の照明は石油を用ひ。所謂外國から着せて貰ひ。御蔭で暮すと云ふ如き有様となり。昔日本の定り仕事は。當時半分にも減りたるに。之に引替へ人口はいよ／＼ますます殖へなば。何れから考へても二三天作は立たぬ道理なり。其証據は忽に人々手間賃の上に顯はれ。大工が一日卅錢。土方が。一日廿五錢。それらは表の看板丈にて。口の上でも御使ひ下され。白米五合代金三錢。夫れでも結構御願申と云ふか如き。安價人の互雜々々する程澤山あるも。仕事種なき不便さよ。之れに異なり。米國は大工が一日金貨の五弗。下働き者も一日壹弗。餘は皆之れに準するなり。倍

日本の青年輩は勞役するを賤しきことと一汗を流さず居喰を好み。米國の大工賃にも足らぬ。百五拾圓や百圓の月給取になりたく思ひ。甚しきは廿圓拾圓にても苦しふ御坐らぬ。何卒官吏にならん者と。小臺所に眷戀し。幸ひ本望遂くればよし。遂げざる時は。不平の凝結。何々黨だの。壯士だのと。毛程も國家の爲にならぬ。之れが眞正の不成者也。併し是等も無理ならず。小百姓か澤山な子孫を産むたと同様にて。小き國に人多く。常に衣食を缺くからして。心の猜忌で其中には盜みする子も出来るのは。珍らしからざる事柄にて。余等も貧子の一人なれば。何とか工夫を回らして。東は亞米利加。北は西比利亞。南は澳太利亞杯へ出稼させる分別を。我が親の爲め兄弟の爲めに盡力したと思ひ。想ひ續けて米國旅中は一杯五仙の麥酒で眠れば。白髮の老翁枕邊に立ち。聲爽かに聞へるなり

蜜、蜂、よ、蜜、蜂、よ。汝、等、元、來、勉、め、た、ら、ず、甘、き、花、も、少、な、け、れ、ば、な、り。花、多、き、所、に、出、か、げ、巢、を、作、れ、巢、を、作、れ。蜜、蜂、よ、山、持、歸、れ、々、々、々。

言下るかと思ふ間も。掻き消す如く失せたと思へば。肩に手を掛け揺り起し。餘り響きが高いから隣の人は叫んでも出来ぬと。外國迄も轟かせし得意の肝は中止消滅。

因に曰ふ。我日本人にて洋語を學ぶ者の思想を考ふるに。一専門を修むるに利用せんとする者あり。外人との商買に利用せんとするあり。流行だから先づ學ばねば損なりとて學ぶあり。素より要用缺く可からざる善事なりと雖とも。余が希望は此の外にあり。我國二十年以下の男女輩は。商も工も農も。大工も左官も桶屋も。土方も傳手も。舟子も車輓も。其最も貧しきもの程尙々英語を學ばせんこと。小數の學者より遙に優れる要用と利益あるを信するなり。斯く貧乏人の子弟に英語を學ばせんとするも。云ふへくして行ふべからざることを打消するものもあらんかなれども。余か一般に學ばせんとする英語は。貧乏人に及び難き程の六ヶ敷仕方に非ず。僅に二三十語若くは五六十語を請記せしむるのみ。例へば我國の三歳兒か回らぬ舌を以て手眞似半分に斥言を述るも。其慊好憂喜諾否の如きは解し得られて差支なき

は。各自が日常目の前熟知する所ならずや。何ぞ英米の三歳児に仕立るを難しとて止べけんや。但之を教ふる方法は一にして足らぬと雖とも。彼の三歳児の語るべき詞を平假名に綴り。之を一枚摺として各戸に分布し。業務の暇鼻歌を謠ふ間に々々暗記せしめ。月中一度乃至兩度定まれる休日毎に。その集遊所へ小學校の教員にても出張して説明を爲す如き簡易極まれる方法を設けなは。何の手間も日間も入らずに。皆英米の三歳児となり。出稼移住の利益は更なり。外人雜居の時に當り。自他の便利多きこと之に及ぶものあらず。以後余は此事を主張して已まざるの決心なり

#### 合衆國の政黨及大統領の選挙

合衆國の政黨。及大統領選挙に就き。見聞の次第を述んに。余等が郵船を離れ。始めて亞米利加の地を踏みたる翌日。選挙確定の當日なれば。余等がニューヨーク府に着いたる數日前に於て。リパブリカン黨の勝と定まり。ハリソン氏撰に當りたるなれば。選挙前の實況は聞くのみにて自撃せず。然れども餘波尙未だ鎮定せず。百人或は二百人とも

覺しき老若一隊となり。(但し此隊列者を。如何なる種類の人なるかと問ふに。商工業家の主人店員。及會社員等なりと。中には數百万弗の財産家あり。頭は満白。或は半白を頂きたる老人も間々あり。服装は大方モーニングコートを着揃へ。同一形の袖印を附けたり。晝は本業に暇なき人々なれば。夜に入午後八時ごろより運動を始む。)各互隊旗を捧げ。眞先に進むものあれば。同黨隊皆之れに隨ひ。ミストルハリソン万歳。或は勝たり勝たり杯の祝聲を放ち。四邊を轟かす大聲にて。市中賑やかなる街々を鳴り歩き。酒店に就ては鯨飲し。又歩いては大聲を揚げ。酒醒れは又酌む等。勇まじき見物なり。其頃、リパブリカン黨の流行歌あり。

Down in the cornfield

Hear that mournful sound

All the Democrats are weeping

Groans in the cold, cold ground.



畑の下に彼の悲しき聲か聞へる。デモクラットが皆泣て居る。グローバーはつめたきく地の下に。

此意や。黒奴が死者を畑に埋葬し。其所に集りて。夜毎に泣くことあり。之れを引例しての謔言なるより又市中往來繁き街辻には。下賤の行商大聲を揚げ。小形なる菓の等を賣り。又は日本製の小形なる毛植細工の鶏を賣るあり。但し現大統領を掃出すと云ふ意味なるより。夫れ鶏は朝々時を告る者なるを以て。事の革まると云ふの意に在るより。斯くすること四五日にて撰擧の沙汰全く止む。止めば全く常に復し。勝つて誇る色もなく。負けて愧る色もなく。兩黨の交り最も親しく。誰ありて一人の政事を談する者なく。商も工も農も各自自分の業を勉めて餘念なし。之れを例せば我國人が神祭の山録神輿を片付て。祭事中の疲勞を覺へたるか如く。又我相撲好が劍山と西の海との取組を見て。甲は劍山よ。乙は西の海よ。互に勝てよ負けるなと吐鳴り騒て。勢力を附けるにも拘はらず。勝敗既に定りて一方に團扇を揚ぐるに至れば。強て何れも怨をもせず。勝た勝

たと共に喧聲拍手して。之れを嘆すか如く。其淡泊や意思の外なり。今迄余等か日本にありての考とは。天地懸隔の相違にて。平常は政事を談する者なく。四年目大統領の撰擧に當り。二三月中は。國民擧つて政黨ならざるなく。撰擧既に定まれば。其時を限り。政黨は解散し。國に一塊の政黨なく。自己自分の業に勵勉するの外更に念なく。國の憲法を遵守して毫も犯さざ。否な。犯さんとするの念慮だもなし。誠に米國人民か男子の男子たる美德を修ふるや稱賛するに餘りあり。中に就き米國の政黨たる。我國諸政黨の如く。卑劣の手段を回らし黨員を募り。又國のためになすに非ずして。人の爲めに。甲は其を主領とすれば。乙は其を総理として之れに黨し。不平の凝結にあらざれば。提燈の持せ合に過ぎず。口に自由民權を唱ふるも。其の行爲や。後家婆が陰口悪口を吐き回して。一つ長屋の和親を破り。嫉妬を散さんとして。助兵衛か門先きの井戸へ。消炭を投込み。飲水を濁らせて。近所中へ迷惑を及ぼす如き所行ある類とは。全く日を同くして語るべき者に非ず。

因に曰く。近來何者の言觸らせりか。日本人は政事志趣に乏しき杯と。馬鹿げ切たる謔言を觸らせりより。甲乙傳へて狂ひ出。農工商は云ふに及はず。甚きは學生の上まで波及して。政事家の眞似をせざれば。男子の仲間に容れられざる者の如く思違へたるもの。日に月に増。國家の爲めに長大息の至ならずや。凡る國あれば。政事家なくて叶はざるは。云ふ迄もなきことなれども我日本は米佛と異なり。天皇陛下のシロシメス國なれば。

天皇陛下の發布し給ふ國憲の法とりて。天皇陛下の任せらるるもの。即ち日本の政事家なり。上下議院及市長。郡長。府縣市郡。町村會議員に撰はるる者。是亦大小の政事家なり。其外に政事家は。一人も必用なきなり。去れども該當の政事家より。知識も多く。經驗も高く。卓越の見識ありて。現政事家の爲すところ。國利民福に危害あり。或は失利の恐れあれば。正當の道により。建白なり議論なり。一身の力を極め。存分に忠告すべきに。左は無くて卑怯にも黨派を擧り。提燈を持たせ。廉恥も知らず。卑屈も顧慮せず。奔走する者あるかため。農商工の子弟を始め。大事の學生までを惑はし。知らず識らず。自己本分の大切なる業に怠り。政事家氣取る傾向あるは。淺猿敷限りにして。國を亡はし家を滅ぼす基を作るに異ならず。慎まざるは有るべからず。先哲云へるにあらずや。國の富強は分業に如かずと。其任せられたる政事家は。一心不亂政事に竭し。商も工も農も學者も。一身不亂本業に竭せばこそ。國の富強を買得るなり。任者の費用を負擔する上は。自己も任者の氣取になり。自分の業を缺くあらば。二重の出費を拂ふに均し。大損不利の至りにして。分業所か日本國中みな政事家と云ふか如し。船頭多くて。其船。山に登り。登つて微塵に碎け船。人。諸共亡はず勿れ。國をも家をも亡す勿れ。只々心を用ふ可きは。已れが資格で。投票す可き市長郡長議員を撰ふに。露店門賣。買ふこと勿れ。立派に見へても。アニリン粉染は。毒氣を含めば。御爲に善くない。見場の少々劣るかなれども。正絹請合。太地の木綿を。能々氣を附て撰る可し。買ふ可し。彼の分業の大事を忘れて。

已れが主眼の事業を缺き、提燈振立騒いで回るも、肝腎要の一間の中へは、御供の面々。隨行無用だ。

#### 米人時を惜むの實況

泰西の習慣にて。米國の日曜は。飯屋と。藥舗と。烟草店。(但し烟草店を閉ざるゝる意を解せず。) 瀧車。人乗馬車の外は。一般の諸業を休み。我日本の元日の如し。若日曜に商業を爲す者あらば。相當の罪を蒙る法律にて。日曜は各自の信仰する宗門の會堂に集り。説教及讚美歌音樂を聽聞し。又靜肅して自家に籠り安息するの例なるは。皆人の知る所にして。我日本の如く土曜日曜は。藝娼妓賣切れ。茶屋料理屋繁忙し。芝居見世物興行場等は。人の山を作る杯のこと曾てなく。平日の繁忙に引換へ静まり。却つて騒動なきや。其の一週一度の日曜休日と雖も。米人が酒色遊興に身を勞し金錢を費さるは。我國人が金を費やし。遊び疲れて。翌月曜日は仕事の手し附き兼る杯の。不都合に比へて見れば。此一點丈にても米人は愈富み。我國人は彌貧乏するの道理を免かれず。但我國

人は未だ日曜に休まざる者多けれども。平常平均して米人の三分一の働きも爲さず。れば。譽むるに足らず。(中に就て最も感あるは。演劇其の他の諸興行にて。何れの興行席と雖とも。晝間は戸を開かず。但し晝間は一人の來客たもなければなり。大概諸興行は。午後の八時より始め。午後十二時迄に終るを常とせり。何故夜の八時より始むるを常とするやと問ふに。午前六時より午後六時迄は。人間持前の職業を勉むる時間なれば。何ぞ之れを遊興に費さんや。午後六時業を終りて。晩食に一時間を費し。其欲する所に到る途中に一時間を費し。午後八時に始むるを通常とす。獨り興行のみに止まらず。會社員株主等の集會なり。俱樂部員の會合なり。孰れも夜會なり。我東京淺草の奥山に京都の新京極に。大阪の千日に。雨雪の降らざれば。毎日遊人の山を成し。其外神佛の緣日とか。開張とか。梅とか。櫻とか。紅葉とか。少しも遊ぶ種あれば。己か業を缺く而已ならず。學問盛りの生徒を休ませ。近所隣を誘ひ引きて迄。遊ぶを取と爲さるのみか。遊ぶを手柄とする如き日本風とは大に異なり。

因に曰く。一日ニューヨーク府を發しボストン府に向ふ。涼車中三人連れの婦人と椅子を隣りて乗合せしに。衣服及指輪耳飾のダイヤモンド等。一寸見ても數千圓の價值顯れ。人柄の高尙なる。問はずと知るべき貴婦人なりか。未だ米國着後日尙淺く。物珍らしき常として。舉動の如何に心を配るに。貴婦人と思ひの外。手指共に太く指節高く磨けたるを見出し。此婦等貴婦人の相あるも手荒き業を取ると見へたり。去れば下等の婦にあるかと。瞳を定めて篤と見れども。中等以下の人品ならず。其日は不審の晴さる儘。其後所々を経歴中。多くの貴婦人を見受けたるに。皆指太く指節高し。爰に始めて前日の不審晴れるに至りたり。凡て米國貴婦人は我國中等以下の婦人の如く。一巳の處置すら持餘し。芋の煮へたも知らずして。指の細きを貴む如き風習に非ずして。日常の家事何に彼と手を下して爲すことは。其實例を見受けたるなり。我國の婦女に於ても藝者女郎は先づ捨置き。一家の宗たり婦たるべきものは。白魚然たる細指を誇らず。貴婦人の手に胼の切れたを。却て尊敬する如き流行をこそ望ましけれ。

## 米人の颯風

米國は若く人心若し。我日本は國老ひたり人心老ひたり。若き者は進取の氣象強く。身体手足素より壯健。老ひたる者は進取の氣象乏しく。身体手足素より衰弱。其米國の若き一例を擧げんは。國若きか故に新たに興すべき事業頗る多く。人心若きか故に志望沈澱せず。險を冒すを常として業を求めて止まず。求めて止まされは國富愈増すなり。冒險早進不慮の點に就ては。英佛人も尙及はずとして。常に三舍を避るならずや。之に反して我老衰國にありては。新たに事業を興さんも種類少く。且新事業と稱する者も。大方は歐米の眞似事にして。彼れ先輩に及はざるや遠し。人心老ひたるか故に。冒險早進不慮に耐ず。未だ臆も生ぬ先きから。親父氣取て勿体振り。何に就ても議論が先き立ち。口のみ達者て手足の動かぬ老人國こそ是非なけれ。去れども人は活物にて。精神をだに改めなは老ても壯者に讓らざる働きは爲し得へし。心老たる日本人よ。三浦翁輔見倣ふ

べし。齊藤實盛、手本と爲すべし。國の存亡、生死の大切なる戦場に後れを取り、臍を噛むなかれ。

因に曰く。米人の習ひとして自國の外に貴重す可き者あるを知らず。假にも米國の短を説き。一言國を辱かゝむる者あらば。忽ちにして色を變じ。口を極めて之れに抗し。愈口論募るに到れば。拳骨忽ち論敵の頭上に下らんとし。又營業の利を争ふに於ても。其飽迄も説きこと中々口に盡し難し。斯く我慢の強きにも拘らず。一種特別の氣風あり。只温和深切なる人と稱せらるゝを以て。此上もなき榮譽とする。と一般の美風なり。故に人の短を語るを耻とし。婢僕奴隸に對するも。横柄粗暴の言を用ひず。弱き婦女子に向つては。貴賤を問はず。勞り助け。其振舞の穩和なるは。我邦人の夢にだも。眞似の出来ざる有様なり。(但婦人を貴むに尊卑の別なく。紳士か女郎の末應に就く扱は。余り感服致し難し。)予等此度の巡回中。到る所として深切なる待遇を受けたるや。中々筆紙に盡す可きに非ず。尤も曩に特命全權公使と

て。米國に在務中公明信實の名を博し。政事社會は云ふも更なり。名ある豪商紳士を始め。未だ面識なき者すら敬慕すること甚だ厚く。我國光を一層増せし九鬼隆一君の添書附言に起因する所なりと雖ども。抑も亦彼の濃厚深切なるは。米人一般に備れる固有の美德と云ふ可きなり。

### 合衆國の保護税

合衆國三百年前に當り。纔に五百萬の人民が憤起して。獨立國となりたるは。勇々一き出來事なりしも。之れと共に保護税を布きたるは。獨立の大業に譲らざる出來事なるは云ふ迄もなく。若し此保護税なかりしなば。合衆國地積廣く國民能く業に勉むと雖ども全國の膏油は舉英佛に持去られ。今尙貧乏國たるを免かれざる定則なる可し。此大要を知りて日夜忘却せざるか故に。合衆國民が今日に於ても。非常の重税を納めて。不平の色なく。甘んじて之れを負擔するや。合衆國の爲め人民の爲め賀す可きの至りなり。(但し合衆國が衣食住に係る日常必需の品物に對し。少なきも二三割多きは。四五割以上の

重税を支拂ふや。人皆知る所なれば之れを罣す。余等か米國旅行中。重税の爲めに支拂ひたる金額は。少なく見積るも一日壹弗余に上り。一ヶ月三十弗以上の税金を米國に支拂ふたるなり。只一個の旅人すら。斯の如く家を構へ眷屬を扶持する國民は如何うや。緩税に慣れたる我邦人の考へ及ふ可き類に非ず。美む可きの至なり。近來漸くブモシヤツト黨なる者現はれ。最早保護税は除却する方。米國の利潤なりと。其説稍く勢力ある如きは似たりと雖も。既に昨千八百八十八年の大統領選挙に於は。保護貿易の主張者たる「リパブリカン」黨の勝となり。「ハリソン」氏撰に當りたるを以て考ふるも。「リパブリカン」黨の勢力優りたるを知るに足れり。其兩黨の二説たる。何れも愛國愛民の衷情より出づるものにて。素より猥りに之れを取捨す可き者に非ずと雖も。若し吾輩をして合衆國民たらしめば。無論「リパブリカン」たらんことを欲するなり。其故如何となれば。試に合衆國中。各都府の商戸に就き。各種の賣買品を見回るに。價貴く且優等の品物は。悉く英佛の輸入品にして。米國自製の品物は概して劣等の品多く。其の價格頗る高き

にも拘らず。國人競ふて輸入品を購求するの傾向甚だ強し。是れ即ち米國各製造所が充分の精力を込めて製造に勉むるも。未だ英佛に及ばざる所あるの証跡なれば。一朝にして保護税を廢する如きは。合衆國三百年の蓄富に。一缺損を附するや明なり。貿易の自由と保護との二点に就き。我日本國の有様を考ふるに。我日本は國古くと雖も。米の獨立と我が開國との年月を較ぶれば。彼は三百年我れは三十年にて。世界の中間に加入して。交際を始めたる年數は。彼に二百七拾年の後れを取り。彼の我より二百七十年前進み。米國民の勉むる。我に數倍するにも拘らず。今尙全く保護税を廢除する能はざるの缺所あり。二百七十年を後れたる我日本國にして。未だ保護税を布く可き道なく。力なく。何れに依て國を富し。何に依て國を保たんや。我日本四千万に近き人ありて。往昔米五百万人の力に足らず。五百万人の爲し得たる事業を爲す能はざる乎。我日本は精神なきの國なる乎否。國民一致して國の精神を作さんとならば。何の難きこと之れ有らん。精神なき國の民と嘲けらる。と勿れ。我國に精神は海關の保護税なるぞ。我國の力

を用ひて取るべき者は保護税の外になさぞ

合衆國の銅石像

國忠者を尊崇し。國民の士氣を養ふ方法は。米國の例を取るに如かず。コロンプス亞米利加發見以降今日に至る迄。合衆國の獨立なり。南北の戦争なり。苟も國の爲め州郡の爲め。政事の爲め商工業の爲め。一廉の功勞ある者は。之れを大理石像銅像となし。政堂障壁の隅々を始とし。各府邑中無數の公園に配立して。尊崇するや衆人の知る所なり。余等外國の旅人すら。散歩の序其銅石像を一見すれば。問ふを俟たずして寫眞影に見覺あるコロンプスの像なり。ワシントンの像なるを知り。感情動ひて最も切なり。園公を以て常の遊歩場となす。米國の幼兒輩は。未だ一丁字でも覺へざるに先きたち。手を引き車を押す卑女に聽て。豫めの歴史を覺り。又自らも成長の後。國の爲めに忠を致せば。斯く万歳不朽の銅石像となし。國と共に永く尊崇せらる。者なるを知るに至る。其最も近き南北戦争蓋忠者の像の如きは。兒童指して兒が祖父なり。兒か母の父なり杯教指して之れを誇り。他の兒甚た之を羨むの情を眼前見受けたるあり。其愛國の士氣を發達せしむるに適當の設けなるや。我か紫宸殿障子に。支那聖賢の像を書き。獨り參殿者の外は之れを拜覽するに由なく。又新しき社殿を建立して社號を附し。廣き地面を塞きて禰宜神主を養ひ。たましく銅石碑を樹るあれば。屈指の漢學者に囑托して撰文せしめ。殊に解し難き文字を引出し。千人中の一人も解讀する能はざる陳文漢文。誰れか之れに因て其人の功を詳かにし。士氣伸張の具たらんや。近頃京都御園の邊りに梨木神社を建設せられ。故三條實滿公を祭られたるに。其頃社邊を徘徊する京僮の曰く。其社は梨木の性を祭りたる者たらふ。斯んな新らしき神様は有り難くない。拜んでも利目がないと。其愚や笑止千万と云ふべきなれども。之れを社に換へるに公か。東帶の肖像を彫刻し。皇國の爲めに憂を懷き。又憤懣の情に耐へざるの勢を含ませらる。趣きを寫し。銅石像として樹らる。あらば。之れを拜する者。安んぞ感情を惹起させらんや。感情起れば。傍人に就て説明を乞ふ可し。説明耳に入て尊像を拜すれば。一層感情深かる可し。感情愈

深ければ。終身之れを忘れざる可し。終身忘れされは子弟を始め衆人に語らん。甲乙傳へて千萬人に及び。倍す公が在世の功蹟を世に傳ふる而已ならず。國民の士氣を養ふに功あるや疑を容れざるなり。今後國に功ある患者を尊崇する。米國の例に改めなば。土地の廣きを費さず。火災修繕の憂なく。禰宜神主を養ふに及はず。都ての費用少なくて。益する所遙に多し。之れ余が最も感したるの其一なり。

#### 米國之自由不自由

夫れ米合衆國を世界無比の自由國とは。誰も彼も信ぜざるものなり。其米自由の有様を。我日本國の有様と何程の差ひあり。且米の如何なる点を指して。無比の自由國と稱するかと熟ら之れを考ふるに。大なる差ひあらざるなり。我國民か世界無比の 天皇階下を奉じて國を愛護すると。合衆國か大統領を撰拔し之れを頭に載せて。國を愛護するの少異なるのみ。(但し我國民の如き何事に就きても。嫉妬偏強き性質にて。國民中より統領を撰み。之れを頭に載せて。國權の重任を委する等は。夢にても成し得可き事柄に非

ず。若し米人をして我國民の如き性質あらしめなば。大統領は毎年刺され。國の方向年に換り。國の動搖日に止むなく。瞬息の間に國を滅すや疑ふ可きを須ひざるなり。深く感するあるを以て故らに爰に記す。)合衆國民自由の力は。國民各自の業務に勤め。勤めて間斷なきの力を。自由の力となすものなり。業なきと業に勉め薄きとは自由の力甚た少く。業に勤むるなき者は。自由の力なきのみならず。零落極り惡事を仕出し。現に獄會の中に繋かれ。青天白日を見ること能はず。日陰の男女。米にも數多あり。一日ポストン市役所員デコック氏の紹介にて。同所アイランドの監獄を一見したるに。男囚一千九百九人女囚二百五十八人未丁年囚百二十人。(七年より十四年迄。該男囚中の一人にて。四十四度犯の者ありと。其最も甚しきは百二十度犯の者ありたりと。典獄の語りたりき。)凡合衆國民か。正業外に餘念なき風習なるにも拘はらず。其本業に勤めずして。斯く不自由となるにあらずや。我日本は不自由國とし。常に不平を懐ける者は。遠慮に及ばぬ自由の名高き合衆國へ何時たりとも宿換へなすべし。米に移つて業務に精出し。年月重ね



て幸ひ得たらば。自由の身となり。子孫の代には國會議員や大統領に撰擧されまひ者でも有まい。併し業務に勉勵せされば。彼の監獄の囚となるべし。我身勝手に合衆國の自由を口にし。自由原素の業務に勉めぬ日本人なら。合衆國へと宿換させても。矢張り不自由不平の輩ならん。

前に并へる献立の外。走り乍らに抓喰せし鹽豚の切端。麵包の片けなど。聊か無きに非れども。甘味なければ之れを省けり。種々料理の多き中には。食ふ人々の好き好きにて。鹽梅加減の口に合かね。嘔氣を催す物もあらん乎。併し毒味は御先へ仕たれい。腹を害する氣遣ひ御無用。始は嫌ひな西洋料理も。度々喰らへば次第に口馴れ。米の飯より滋養は勝れり。胸を打など。白黒目なりと。成るべく耐忍て食ふ人多きを。我國健康肥太の基と。切に希望をなすと云爾。

予一日高木君を訪ひ君が遠く海外より齋らし歸りし高話を聽かんと欲せしよ君適他出中よて面晤を得る方よ去んとするよ一冊子乃卓上よ在るあま注目一讀されは果せる哉高論卓説覺へた人として猛然反省せしむ君筆者としよ此冊子を記せしむる素より其抱懷の心事を同志に告んとの意あるへしと雖も不幸よして君と起居を隔つる知人の如きを或も卓説を耳よすると能はざらんことを憂へ特よ君の承諾を得て書肆に囑し上梓し之を世よ公よせしむ

明治二十二年四月上澣

天籟館主人識

全 明治二十二年四月十日印刷  
年四月十二日出版

定價三錢

京都府京都市下京區德萬町  
第二百番地乙第八番戶

著作者

高木文平

全 京都市上京區東洞院三條上ル  
曇華院前町十番戶

印刷兼  
發行者

村上勘兵衛

2L-25

1979  
12  
188

039688-000-7

特17-546

はなしの代理

高木 文平/著

M22.4

BDA-0269

